

# 教育に関する事務の点検・評価報告書

(令和4年度実施事業分)

仙南地域広域行政事務組合教育委員会

# 基本目標

## 1 視聴覚教材センター視聴覚教育計画

圏域住民一人ひとりが、心豊かに生きがいを感じ、絆づくりと互助・共助による活力があるコミュニティ形成を目指し、生涯を通じて自立・協働・創造に向けた学習活動を展開する中で、視聴覚教材センター（あずなびあ）では、各世代が様々な学習ニーズに応じて活用できる視聴覚教材・機材を整備し、さらに、地域に根ざしたテーマに基づく視聴覚教材制作を進めて、郷土愛、創造力豊かな人材育成を図ることで、圏域住民一人ひとりの生涯学習活動の更なる充実をめざす。

また、情報教育や英語教育が必要とされる今、圏域住民の様々な学習ニーズに応えるため、事業内容の見直しを図るとともに、今後の視聴覚教材センターの在り方についても調査・研究を行う。

## 2 仙南広域圏の振興発展に資する事業計画

本事業は、子どもたちが興味・関心を持つことのできる事柄を通じて、ことさらに自治体の枠を超えて、圏域の将来の文化活動を担う人材育成することを目標とする。

また、次代を担う子どもたちと地域の文化を『はぐくむ』ことをテーマとした事業を実施する。

## 3 仙南芸術文化センター（えずこホール）事業計画

仙南芸術文化センター（えずこホール）運営の基本コンセプトは、住民参加型文化創造施設。社会包摂の考え方を基本に、圏域住民の皆さんがホールを拠点にいきいきとアート活動を展開し、手作りで舞台を制作する。また、圏域内のさまざまな機関、団体、人と、連携、協働しながらアウトリーチ活動を展開することにより、アートによる人と地域の活性化の循環を促進し、仙南圏域をいきいきさせていくことを目指す。鑑賞事業については、各分野から質の高いものを招聘し、優れた舞台表現にふれていただくと同時に、ワークショップ等、住民の皆さんが気軽に参加体験できるプログラムを併せて開催。えずこホールが世界の窓となり広くアートを体験していただく機会として提供する。

令和4年度は、例年同様、創造発信事業、参加体験事業、鑑賞事業を、圏域内すべての住民を対象に、継続的に展開することにより、新しい時代の新しいアートによる創造的な人と地域づくりを推進していく。

# I 事務の点検・評価について

## 1. 点検評価の趣旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条の規定により、教育委員会は、毎年、その権限の属する事務の管理及び執行の状況について自ら点検評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに公表することとされています。また、点検評価を行うにあたっては、教育に関し学識経験者を有する者の知見の活用を図ることとなっています。

このため、教育委員会では、教育行政の効果的な推進を図るため、「教育に関する事務の点検・評価」を実施し、報告書にまとめました。

## 2. 点検評価の対象

「仙南地域広域行政事務組合教育及び文化の振興に関する施策の大綱」に掲げた事務事業を対象としました。

## 3. 点検評価の方法

点検評価は、事務事業の必要性、効率性、有効性、公平性の観点から自己評価を行いました。また、客観性を確保するため、教育行政点検評価員会議を開催し、教育行政点検評価員として委嘱した外部の学識経験者（委嘱先については次頁参照）より意見をいただきました。

## 4. 結果の取り扱い

この点検評価の結果については、課題や問題の解決を行うと同時に事務事業の見直しについて検討することとなります。

### 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

#### （教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

**第26条** 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

**2** 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うにあたっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

## II 教育行政点検評価員会議について

### 1. 開催日時・場所

日 時：令和5年8月31日（木）14時30分～

場 所：仙南地域広域行政事務組合仙南芸術文化センター 会議室

### 2. 会議次第

1. 開会
2. 委嘱状の交付
3. あいさつ（当組合教育次長より）
4. 教育に関する事務の点検・評価について（令和4年度実施事業分）
5. 閉会

### 3. 教育行政点検評価員の略歴

○大脇 賢次 氏

性 別	男	年 齢	67 歳	在住市町	柴田町
加盟団体等	大河原町自作視聴覚教材制作グループ				
主要経歴	愛知県豊山町立豊山中学校講師 他4校の講師				
	宮城県柴田郡村田町立村田第一中学校教諭 他7校歴任				
	全国自作視聴覚教材コンクール入選（5回）				
	文部省奨励研究（郷土教材の開発）（平成4年）				
	宮城県視聴覚教育功労者表彰（平成16年）				
	緊急学校支援員（東船岡小学校及び船岡小学校） （平成28年度、平成29年度）				
	柴田町学び支援コーディネーター（柴田町教育委員会教育総務課） （令和元年度、令和2年度）				
大河原町自作視聴覚教材制作グループ会長					

○八巻 寿文 氏

性 別	男	年 齢	67 歳	在住市町	仙台市
加盟団体等	日本照明家協会				
主要経歴	舞台照明家、美術家				
	せんだい演劇工房 10-BOX 二代目工房長				
	せんだい3.11メモリアル交流館 元館長				
	せんだいメディアテーク 元職員				
	日本照明家協会奨励賞				
	宮城県芸術選奨 受賞				
宮城県「文化の日」表彰（教育文化功労）					

### III 点検・評価の結果

#### (I) 視聴覚教育の充実

事業目的
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育現場のニーズに対応するための調査・研究を行う。</li> <li>・教材・機材の整備と効果的な利用促進を図る。</li> <li>・市町と連携を図り、視聴覚教育を通じたまちづくり、人づくり事業を展開する。</li> </ul>

#### (1) 各種講座及び学習機会提供事業

事業概要
<p>圏域住民の新しい知識や技術の習得を目指し、外部講師を招いた研修など、内容の充実を図るとともに、学習ニーズの拡大に対応した学習活動を支援する。</p> <p>主催講座及び出前講座（出前 de あずなびあ）</p> <p>おでかけ！あずなびあ！</p> <p>えず☆スタ2022～ディス is えずこスタンス～</p> <p>その他事業（オンライン配信支援等）</p>
<p><b>実績及び成果 ※各事業の詳細は、令和5年度教育委員会要覧 P12～P13 参照</b></p>

主な成果及び課題	
主催講座及び出前講座（出前 de あずなびあ）	PC及びタブレット端末双方に対応した初心者向けビデオ編集講座を主催で実施。また、限定的な範囲ではあったが、かねてより検討していた上級者向けビデオ講座も開催できた。出前講座はオンライン系・プログラミング系の依頼がほとんどで、潜在的な需要も数多くあると思われるが、それに対応するための職員のスキルアップ・外部講師の確保に課題を残している。
おでかけ！あずなびあ！	各児童館等において、多くの児童に体験の場を提供できた。前年度に引き続きプログラミング体験を中心に、16ミリ映写機操作体験や視聴覚教育指導員と共同で制作した映像を用いた、クイズ大会等を実施した。今後の課題としては、実施できる体験のバリエーションを増やすこと、外部講師の確保などが挙げられる。
えず☆スタ2022～ディス is えずこスタンス～	視聴覚教育指導員と連携のもと、コロナ対策を施しながらブース運営を行い、多くの方々にご来場いただいた。今回は、視聴覚教育指導員と共同で制作した映像の利活用も兼ねるブースとした（そういう場が皆無に近かったため）。来場者に映像を視聴してもらった後、それに関するクイズを出し、正解数に応じて景品（各市町から提供いただいた、ゆるキャラシール等）をプレゼントする、という内容であった。ただ、前年度まで2年連続で実施したプログラミングロボット「スフィロミニ」体験と比較して、結果的に来場者の盛り上がりには欠ける部分があった。新たな着眼点を見出したところはプラス要素だったが、今後は適度なバランスを備えたブース案、企画力が求められる。
その他事業（オンライン配信支援等）	各団体のイベント等のオンライン配信の支援を実施。本年度も全面的な支援にとどまらず、事前に主催者向けの配信講座も実施し、当日の現場にも最低1名は人員を割いてもらう等、人材の育成にも努めた。社会にオンラインが浸透し、今後も一定の需要が見込まれるが、本事業を利活用する市町に偏りが出ているため、今後の広報活動により、その格差の是正に努めたい。

内部評価と観点		評価	総合評価
主催講座及び出前講座（出前 de あずなびあ）	限られたマンパワーの中で、時代のニーズに合わせた講座を企画・運営し、人事異動等がありながらも、職員全員がスキルの向上に最大限努めた。	A	A
おでかけ！あずなびあ！	現在提供できる体験活動は、毎年依頼をいただく団体には目新しさに欠ける感も出てきたため、違ったアプローチを模索する必要がある。	B	
えず☆スタ2022～ディス is えずこスタンス～	視聴覚指導員と密に連携を図りながら、イベントを成功させることができた。今後は、いわゆる指導員ブースのみでなくイベント全体を把握する意識の醸成も必要と考えられる。	B	
その他事業（オンライン配信支援等）	主催者と連携し、何らかの理由で来場が困難な方向けに、オンライン参加という選択肢を提供できた（映像はアーカイブに残ることから、来場者や主催者が後日確認のため、視聴することもできる）。当圏域教育関係機関の配信機器に対する認知度も、順調に向上してきている。	A	

※ A・・・目標を上回って達成した B・・・目標をほぼ達成した C・・・目標をやや下回った D・・・目標を下回った

外部評価員による評価
<p>「えず☆スタ」での映像作品の上映については、2市7町を平等に取り上げるのはなかなか難しいだろうが、今後もこういったことを積極的にやってほしい。今回のブースの反応がいまひとつだったのは、遊びのバリエーションが不足していたのか、発想に柔らかさが必要だったのかなという印象を持った。オンライン系の講座は、コロナの経験も生かして、非常に時代に合っていると感じる。こういった指導の技術を持った人材については、なるべく異動を抑えてもらって、維持し、きちんと技術を継承できるようにしてもらいたい。専門性という部分では、人事異動は慎重にすべきと感じる。外部講師を招いて、職員がその技術を学ぶということも良いと思う。</p>

(2) 視聴覚教材・機材の整備及び貸出事業

<b>事業概要</b>	
視聴覚教材・機材を適切に整備し、学校教育及び社会教育における学習活動場面での効果的な利用促進を図る。	
視聴覚教材・機材の貸出 学校教育・社会教育専門部会	
<b>実績及び成果 ※各事業の詳細は、令和5年度教育委員会要覧 P14～P18、P21 参照</b>	

<b>主な成果及び課題</b>	
視聴覚教材・機材の貸出	現在、貸出教材の主力となっているDVD教材は、新型コロナワクチン接種会場での利用が減少したため、利用回数・視聴者数ともに減となった。今後も、特に学校現場ではネット配信教材にシフトしていくことが既定路線となりつつあるため、当センターとしてDVD教材の位置づけを如何にするか、方針を定める必要がある。貸出機材については、近年導入したポータブルスピーカーが好評で、前年度比で利用回数が2倍以上(22回⇒51回)となった。Bluetoothに対応していることから、ケーブルレスで手軽に使用でき、特に学校関係からの引き合いが多かった。こういった使い勝手の良い機器のほか、非常に便利だが高額で、個々の団体では購入できないような機器を今後導入し、センターの存在価値を高めて行く必要がある。
学校教育・社会教育専門部会	小・中学校の先生、市町の社会教育施設職員の方を専門部員として、センターで整備すべき教材・機材の選定をお願いした。その中で、学校現場ではネット配信教材で事足りているので、DVD教材の新規購入は不要、といった意見も前年度に引き続き挙がったことから、学校教育専門部会の形態見直し等も視野に入れ、検討を進める必要がある。

<b>内部評価と観点</b>		評価	総合評価
視聴覚教材・機材の貸出	機材方面では、センターの存在価値を一定以上示すことができた。DVD教材に関しては、広報等でのPRを本年度も行ったが、現在の状況に柔軟に対応し、新たな提案の形を探っていきたい。	B	B
学校教育・社会教育専門部会	会議では、事前に送付した教材カタログに縛られず、様々な意見を聴取できた。今後は、小教研・中教研の視聴覚教育部会との連携・情報交換等によるニーズの把握にも努めたい。	B	

※ A・・・目標を上回って達成した B・・・目標をほぼ達成した C・・・目標をやや下回った D・・・目標を下回った

<b>外部評価員による評価</b>
古い自作教材(映像)は、現在の使用に耐えられなくなりつつあるものもあると思う。これについては制作者や他圏域の教材センターと情報交換をしながら方針を定めていってほしい。専門部会は教育現場の声をつかむ場として、今後も有効活用してほしい。現場は常に変化しているので、柔軟に対応をお願いしたい。教材・機材貸出については、教材センターのロゴ等を大きく表示するなど、民間でいうところの営業を積極的に行ってほしい。

## (II) 自作視聴覚教材（地域教材）の制作・保存・活用

事業目的
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自作視聴覚教材を制作する人材の発掘を行う。</li> <li>・市町と連携を図り、地域素材を生かした教材制作を支援し、保存・継承を行う。</li> <li>・自作視聴覚教材を活用した事業を展開する。</li> </ul>

### (1) 地域学習教材制作の促進と保存事業

事業概要
<p>地域素材を生かした自作視聴覚教材制作の支援と、インターネット配信等も活用した利用促進を図り、地域学習の教育的な効果を高めるとともに、自作視聴覚教材のデジタル化と保存に努める。</p> <p>仙南ふるさとC-Mグランプリ（仙南地区自作視聴覚教材発表会）</p> <p>地域映像のデジタル化・保存と自作視聴覚教材制作への支援</p>
<p><b>実績及び成果 ※各事業の詳細は、令和5年度教育委員会要覧 P19～P20 参照</b></p>

主な成果及び課題	
仙南ふるさとC-Mグランプリ（仙南地区自作視聴覚教材発表会）	自作視聴覚教材の制作技術の向上、教材制作の奨励及び自作視聴覚教材の整備充実を図るために開催。昨年度と同数の計8作品が出品され、一般の来場者は17名と、前年度比で5名増となった。一方で、新規出品者は1名のみという状況で、近年継続的な課題となっている新たな制作者の掘り起こしが、うまく進んでいるとは言い難い。
地域映像のデジタル化・保存と自作視聴覚教材制作への支援	アナログ教材については順次デジタル化を行っている。また、制作者に許可を得た作品については、YouTube等を活用したネット配信の準備を進めている。教材制作に関しては、動画編集についての技術的な助言（編集ソフトの使用法等）や、作品内で使用するナレーションの録音といった方面で支援を行った。

内部評価と観点		評価	総合評価
仙南ふるさとC-Mグランプリ（仙南地区自作視聴覚教材発表会）	今回の8作品のうち5作品は大河原自作視聴覚教材制作グループのメンバーから出品いただいたものであり、今後も同グループとの連携を強めていきたい。一方で、それ以外の出品者が減少傾向にあるため、映像制作の講座等を開催して新規制作者の育成を図ったり、市町の広報に掲載してもらう等、状況打破に向けた様々なアプローチを考えていきたい。	B	B
地域映像のデジタル化・保存と自作視聴覚教材制作への支援	教材制作については、制作者自身のスキルアップも見据え、前年度からスポット的な支援（分からないところを手厚く）に切り替えている。本年度はそれによる効果が現れてきており、今後は制作者間での技術交換が行われるよう働きかけていきたい。	A	

※ A・・・目標を上回って達成した B・・・目標をほぼ達成した C・・・目標をやや下回った D・・・目標を下回った

### 外部評価員による評価

出品者の掘り起こしに関しては、ただ漠然と作ってねと言っても難しい部分もあるのではないか。毎回、課題（テーマ）を用意して、それに沿って作ってもらうといった仕掛け等が必要なのかもしれない。また、C-Mグランプリ以外の目立つ発表の場を、例えば「えず☆スタ」と共同実施するなどして、設けることができたら良いのではと感じる。

### (Ⅲ) 広域的な人材育成／参加・体験の場と機会の提供

事業目的
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域資源を活かした演劇等の舞台作品を制作、子どもたちが協働して創り上げる体験を通して、コミュニケーション能力の向上、自己肯定感の醸成を図り、心豊かな人材を育成する。</li> <li>・圏域内外の社会教育施設等の利用促進を図るとともに、郷土愛を育み、地域アイデンティティの創出につながる自主的で生き生きとした活動ができる場と機会を提供する。</li> </ul>

#### (1) A Z 9 ジュニア・アクターズ養成事業／A Z 9 パスポート事業

事業概要
<ul style="list-style-type: none"> <li>・高度な総合芸術である演劇への参加を通して、将来の文化活動を担う人材の育成を図る。</li> <li>・共同表現の場である演劇を通して、自治体の枠を超えた成果を児童に共有させ、郷土の共有意識と交流の拡大を図る。</li> <li>・児童と地域住民の多様な交流を図り、A Z 9 ジュニア・アクターズを地域に開かれた集団として育成する。</li> <li>・仙南圏域及び県内6圏域の社会教育施設等の無料開放を受けることができるパスポートを作成し、圏域内2市7町の小中学生に配布する。</li> </ul>
A Z 9 ジュニア・アクターズ養成事業
A Z 9 パスポート事業
<b>実績及び成果 ※各事業の詳細は、令和5年度教育委員会要覧 P 29 ～ P 31 参照</b>

主な成果及び課題	
A Z 9 ジュニア・アクターズ養成事業	<p>本年度A Z 9 ジュニア・アクターズは結成から30年の節目を迎え、様々なワークショップ、アウトリーチ等のプログラムを展開しながら、A Z 9 メンバーのみならず、圏域の多くの人々とともに「30周年記念公演」を創り上げていった。とりわけ蔵王町在住の水彩画家である加川広重との巨大絵画ワークショップは、その取り組みの中心となるもので、出来上がった絵画は物語のカギを握る存在として、記念公演のステージに登場した。ステージには現役メンバーに加え数多のOB・OGも出演し、集大成の、そして未来につながる物語をともに完成させた。課題としては、近年の継続的なものであるが、団員数の確保と保護者の負担軽減が挙げられる。</p>
A Z 9 パスポート事業	<p>利用者数は新型コロナウイルスの第6波～第8波（とりわけ7波と8波）で感染者数が大幅に増加した影響で、昨年度と比較して6割以上の減となった。</p>

内部評価と観点		評価	総合評価
A Z 9 ジュニア・アクターズ養成事業	<p>数々のアーティストや圏域住民と協働したことで、記念公演の成功に加え、地域の劇団として一般への認知度も向上したと感じる。これを入団者増につなげていきたい。</p>	A	A
A Z 9 パスポート事業	<p>ホームページ等でのお知らせは十分に行った。アフターコロナに向け、仙南2市7町とも連携してさらなる利用の促進に努めていきたい。</p>	B	

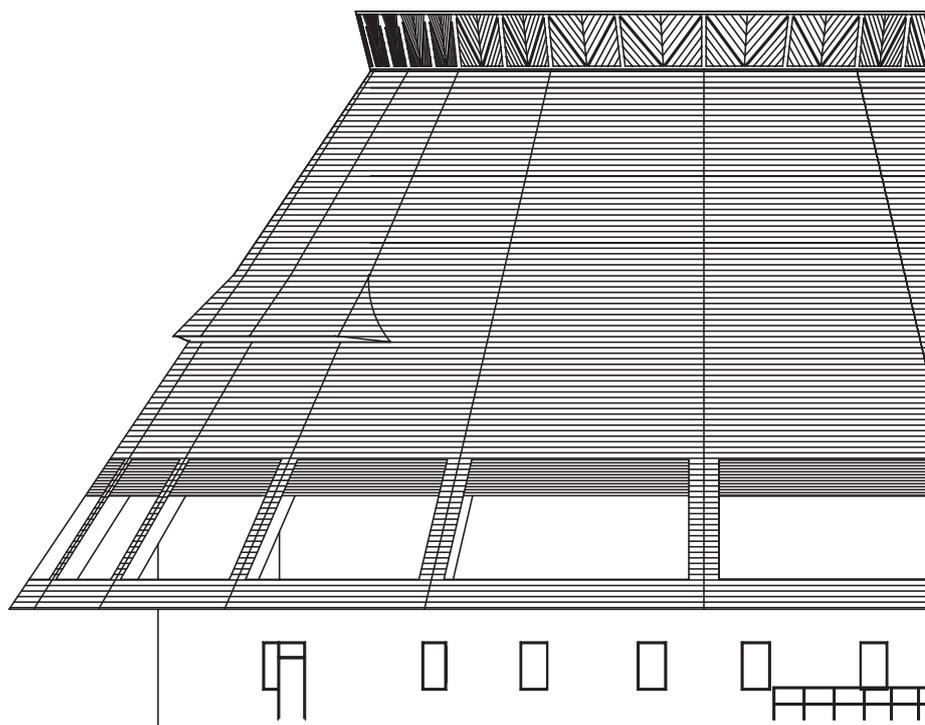
※ A・・・目標を上回って達成した B・・・目標をほぼ達成した C・・・目標をやや下回った D・・・目標を下回った

### 外部評価員による評価

A Z 9 ジュニア・アクターズ養成事業については、他の地域がこれから始めようと思っても絶対に追いつかないところにいる。OB・OGが顔を出してくれると現役生は力をもらうし、逆もまた然りかと思う。「親と先生」という縦の関係でもない、横の友達とのつながりともまた違う、斜めの関係が非常に教育的であるし、財産だと感じる。パスポート事業については、利用者にとってはメリットしかないものなので、あとは告知の部分で工夫をお願いしたい。



# 令和4年度 仙南芸術文化センター事業の点検・評価報告





## (2) 創造舞台製作及び支援

事業概要	
創造舞台製作及び支援 事業趣旨：住民創造グループの公演、AZ9ジュニア・アクターズ公演、それぞれ住民主導による手づくりの創造舞台公演として製作し地域の内外に発信していく。合わせて地域に根差して文化活動に取り組む住民の企画事業を支援、助成する。	
演劇：①えずこシアター第24回演劇公演『それでもDANCE!DANCE!DANCE!』 ②AZ9ジュニア・アクターズ結成30周年記念公演『アズランド～つづくつながる物語～』 音楽：③えずこミュージックアカデミーコンサート25th 共催：④第45回仙南合唱祭 ⑤AZミュージックフェスティバル24th さいかい ⑥第16回新春教員コンサート DANDAN DANCE & SPORTS 19th ⑦AZoo第9回公演「向かって右、向かって左」 <b>全体の活動回数14回(9回) / 延べ参加者数+観客数 3387人(1271人)(昨年度)</b>	
実績及び成果 ※各事業の詳細は、事業報告書P12～P15参照	

主な成果及び課題	
演劇①～②	結成30年を迎えたAZ9ジュニア・アクターズ公演では、舞台美術(巨大絵画づくり)や劇中曲の作曲を地域の子どもたちと協働制作するなど地域連携を図ったほか、コロナ禍を超えた活動は、えずこシアター公演を含め、さまざまな工夫を凝らした事業展開となった。将来に向けた継続事業として、作品づくりを含む活動をどのように変化させ、時代に合ったものにしていけるか、課題となる。
音楽③	ポストコロナに向け、団体向けのコラボなど活動の活発化が図られた。団体によっては、参加者数が減るなどコロナ禍における活動の影響が残っており、魅力ある活動づくりがと世代交代が進む中、参加者同士の交流や意識共有のあり方について課題がみられる。
共催事業(圏民企画劇場)④～⑦	継続事業がほとんどを占めており、共催申請の新規事業がないことから、見直しを含め、事業のあり方などについて内部でも協議を行いながら、時代に合った事業の取り組みを目指すこととしている。なお、主催者側とも十分な情報交換のもと、調整していくことが望まれる。

内部評価と観点		評価	総合評価
演劇①～②	表現のあり方にダンスなどの要素を取り入れるなど新たな取り組みにチャレンジした。さらに、配信の技術を舞台演出に取り入れるなど、舞台創作においても創意工夫が随所にみられた。	A	B
音楽②～⑥	公演では、他団体との合同演奏など積極的に連携したほか、新しい曲への取り組みや参加者募集に向けた広報活動も各団ともに積極的に取り組んだ。	B	
共催事業(圏民企画劇場)⑦～⑨	共催団体の固定化が進む一方、活動の停滞はコロナ禍が追い打ちをかけた経緯も踏まえ、今後新たな活動支援のあり方を模索し、共催支援についての再検討が行う時期に差し掛かっている。	B	

※ A・・・目標を上回って達成した B・・・目標をほぼ達成した C・・・目標をやや下回った D・・・目標を下回った

外部評価員による評価
えずこホールとあずなびあが随所で連携し事業を行っていることはとても素晴らしいことだ。配信のノウハウなど裏方面での連携がさまざま見受けられ、互いに力を合わせて地域に向けた事業に生かされている点は高く評価したい。また、総合的な取り組みとして、スポーツの分野を含めて広げることができたら、さらに可能性が膨らんでいくと思う。

## (Ⅱ) うるおいの圏民参加体験事業

事業目的
<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動の地域移行について市町と連携を図るなどホールのみならず圏域内各所で、文化芸術に触れることのできる事業を行う。</li> <li>・深い表現活動を体験すると同時に、創造性を育み、住民が互いに尊重し合い心のつながりが持てる事業展開を目指す。</li> </ul>

### (1)-1 アウトリーチ事業～アーティスト編～

事業概要
<p>アウトリーチ事業の趣旨：老若男女、障がいの有無、その他さまざまな社会状況に拘らず、すべての住民を対象とし、学校、福祉施設ほかさまざまな社会機関と連携、協働して展開する。</p>
<p>演劇：①柏木陽（演劇家）            音楽：②大森智子（ソプラノ）、田村緑（ピアノ） ③田村緑（ピアノ） ④片岡祐介（音楽家）            ⑤中川賢一（ピアノ）、村上敏明（テノール） ⑥田村緑（ピアノ）、ミッチェルん栗林（ソプラノ）            ⑦片岡祐介（音楽家）            ダンス：⑧遠田誠（ダンサー） ⑨楠原竜也（ダンサー）、近藤理恵（ダンサー） ⑩ ISOPP（ヒップホップダンサー）            全体の活動回数 35 回（34 回）／ 延べ参加者数 1147 人（1139 人）（昨年度）</p>
<p>実績及び成果 ※各事業の詳細は、事業報告書 P 18 ～ P 21 参照</p>

主な成果及び課題	
演劇①	子どもたちが、主体的に意見し、表現を引き出していく演劇の手法は、教育課程で比較的弱いとされるコミュニケーション力や創造力を引き延ばすきっかけづくりの場となっている。なお、コロナ禍において、対面での会話や接触の多いプログラムから開催の要望や回数が少ないなどの課題が見受けられる。
音楽②～⑦	非常に充実したさまざまなプログラムを提供することを通して文化的な理解や多様性への尊重を育むきっかけづくりができた。課題としては、優れたプログラムを受け入れる学校が比較的固定化に傾いており、事業普及に向けたアプローチを検討したい。
ダンス⑧～⑩	ヒップホップやコンテンポラリーなど幅広いプログラムを提供。創作ダンスやコミュニケーション力を引き出すアイコンタクトダンス、チーム協力による個々の尊重する力を引き出すことができた。新たなアーティストによる新規プログラムの提案は今後の課題である。

### (1)-2 アウトリーチ事業～住民創造グループ編～

事業概要
<p>アウトリーチ事業の趣旨：前項に同じ。</p>
<p>①えずこウィンド♪アンサンブル キャラバン ②えずこヴァイオリン&amp;チェロ♪アカデミー キャラバン            ③えずこギター♪アンサンブル キャラバン ④えずこ♪ゴスペル キャラバン            ⑤えずこ♪男声合唱団 キャラバン ⑥おでかけ！あずなびあ！            全体の活動回数 15 回（8 回）／ 延べ参加者数 + 観客数 925 人（346 人）（昨年度）</p>
<p>実績及び成果 ※各事業の詳細は、事業報告書 P 22 ～ P 23 参照</p>

主な成果及び課題	
活動①～⑥	<p>コロナ禍において、音楽ジャンルの全ての住民創造グループが活動することができた。地域との関わり的重要性を各団内部でも協議し、実施に向けることができた。今後、地域内イベント等の増加が想定され、参加頻度の増加にどう対応していくかが課題。</p> <p>また、⑥では、あずなびあのノウハウを共有するプログラムで人気を高め、年間を通じて開催数も増加。協働を高めるとともに、互いのノウハウの融合とオリジナリティの高いプログラムの新たな制作にも力を入れていきたい。</p>

内部評価と観点		評価	総合評価
(1)-1 アーティスト編 演劇①	自由で創造的な発想と遊び感覚を散りばめたプログラムがより子どもたちの創造性を引き出す現場づくりができた。個性と集団における共感や感受性の醸成に努めることができた。開催数増加を図りたい。	B	B
(1)-1 アーティスト編 音楽②～⑦	全国トップレベルのアーティストが複数参加。単なる鑑賞に留まらない、楽器体験やオペラ体験、作曲など、子どもたちが主体的関わるプログラムが非常に充実しており、質、量ともに充実した内容で実施ができた。	A	
(1)-1 アーティスト編 ダンス⑧～⑩	教育課程で必修化されるダンス教育において、専門性の高さを踏まえ、各学校に提供できたことやコミュニケーション力と表現による自己肯定感の促進など活動を通して醸成に傾けることができた。	A	
(1)-2 住民編 活動①～⑥	全ての音楽団体が参加実施したが、コロナ以前の参加の頻度に加え充実したプログラム内容の開発の期待も望まれる。おでかけ！あずなびあ！では、えずこホールとあずなびあの協働により多様な地域のニーズに応えられるプログラムを届けることができるようになった。今後も自由度の高さを生かすと同時に協働の幅と更なる魅力を広げていきたい。	B	

※ A・・・目標を上回って達成した B・・・目標をほぼ達成した C・・・目標をやや下回った D・・・目標を下回った

外部評価員による評価
アウトリーチ事業では、アーティストが気さくに子どもたちに接し、子どもたちの心に刻まれる体験となっている。また、開催の回数も徐々に増えてきている点も含め評価したい。学校は、毎年、児童、生徒が変わる場であり、器であることを踏まえ、そうした場の確保が継続されていることが大きいと思う。さらに、小学生には身体的感覚を伴うダンスや演劇のプログラムが相性がよかったり、中学生には音楽がよいのではないかなと思う。マッチングが大切で、そうした視点でコーディネーターがそうした認識のもとで開催している点が素晴らしいと思う。

## (2) ワークショップ事業

事業概要
ワークショップ事業の趣旨：老若男女、障がいの有無、その他さまざまな社会状況に拘らず、すべての住民を対象とし、幅広いジャンルの多様な体験型ワークショップを、誰もが参加しやすいプログラムとして各種開催する。
演劇：①はじめてのエンゲキ体験 ②あつ～い夏エンゲキ的な1日アハハハ～ント 音楽：③60歳からの楽しいクラブ活動「片岡祐介とまったり楽しむ 作曲体験教室」 ④シエナ・ウィンド関連企画 吹奏楽部楽器クリニック 美術：⑤巨大絵画を描こう！ ⑥加川広重 巨大画展 その他：⑦えずっこひろば ⑧ムラタ・ワンダリング！ ⑨AZ9 ジュニア・アクターズ ポスター展 ⑩えず☆スタ 2022 全体の活動回 37回(31回)／延べ参加者数+観客数 3554人(1582人)(昨年度)
実績及び成果 ※各事業の詳細は、事業報告書P 24～P 28 参照

主な成果及び課題	
演劇活動①～②	AZ9 ジュニア・アクターズの活動と連携しながら、AZ9 メンバー以外も対象として演劇の魅力伝えるきっかけを作ることができた。一方、コロナ禍で対話や接触を含む演劇プログラムの良さを引き出し、実施数などを増やすことがなかなか難しい状況にあった。
音楽活動③～④	小学生から60代までの幅広い世代に参加いただくことができた。全国トップレベルのアーティストと地域の人々との交流に加え、クリエイティブな活動を実践することができた。60歳からのクラブ活動は、自主的な活動を含む持続可能な活動形態の検討が必要。

美術活動⑤～⑥	AZ9 ジュニア・アクターズの舞台づくりに向けた巨大画づくりは、公演や展示会など大ホールステージの空間使いの可能性を広め、同時に参加型のあり方を大いに生かす取り組みとなった。一方、製作した絵画の運用や転用など、作品を生かす今後の場づくりや継続性が課題。
その他の活動⑦～⑩	各事業が、劇場の活動の幅を大きく広げる特徴ある取り組みとなっており、継続性も担保できるノウハウの蓄積もできてきた。今後はさらに劇場が行える事業の幅を広げていく可能性を模索し、新たな取り組み等についても研究を重ねていきたい。

内部評価と観点		評価	総合評価
演劇①～②	ポストコロナに向けて、コミュニケーション力を生かした事業の取り組み数は少ないが、実施そのものに意義がある。更なる事業展開に向け、機会を増やしていきたい。	B	A
音楽③～④	幅広い世代に参加いただけていることや質の高い内容と参加者の満足度も高い結果を得られていることなどを踏まえ、今後もこうした取り組みの充実に努めていきたい。	A	
美術⑤～⑥	AZ9 ジュニア・アクターズ記念事業の位置づけでもあり、規模の大きさ、質の高さともに例年より特別なものであった。その評価の高さを今後を生かした事業の取り組みを再考していきたい。	A	
その他の活動⑦～⑩	劇場としての役割の幅を広げられる活動を持ち合わせている点が大きな特徴。また、ノウハウの蓄積を担保できる人的体制について、引き続き安定化を図る必要がある。	A	

※ A・・・目標を上回って達成した B・・・目標をほぼ達成した C・・・目標をやや下回った D・・・目標を下回った

外部評価員による評価
基本的に事業の回数ではなく、1回ごとの内容で評価されるべき。例えば、60歳からの楽しいクラブ活動の参加者の満足度が高いのはなぜかといった尺度についてもアンケートや意見をとるなど裏付けされる情報があるとよい。また、映像含め、現場でどのようなことが起こったかなど、記録をしっかりと残すことも大切であると思う。大切なことは、ホールだけでなく外側で行ったことが循環し、巡って戻ってくることが成果や効果となるイメージだと思うので、そういうイメージを持って事業に取り組んでほしい。

### (Ⅲ) 心の鑑賞事業

事業目的
<ul style="list-style-type: none"> <li>・住民が優れた文化芸術にふれ、深い感動や心の癒しを体験、また、創造的な価値観が醸成される鑑賞事業を実施する。</li> <li>・経済的弱者を継続的に支援し、心豊かな人づくり地域づくりに資する事業に取り組む。</li> </ul>

#### (1) 鑑賞事業

事業概要
すぐれたアーティスト、アート作品との出会いは共感と深い感動をもたらす。そして、さまざまな感動体験は、人を変え地域を変えていく原動力となる。各分野から厳選し、親しみのある事業も織り混ぜながら、地域文化創造事業や圏民参加体験事業に結びつくような鑑賞事業を提供する。
演劇：①守銭奴 ②人間になりたがった猫（共催事業） 音楽：③シエナ・ウインド・オーケストラ ④日野皓正クインテット（共催事業） ⑤塩谷哲×宮本貴奈 二台ピアノ連弾（共催事業） ワールド・伝統芸能：⑥鼓童（共催事業） ⑦柳家三三 独演会 全体の活動回数 9回（14回）／延べ参加者数 3020人（2869人）（昨年度）
実績及び成果 ※各事業の詳細は、事業報告書P 30～P 33 参照

## (2) その他（えずこサンタプロジェクト・インターン事業）

事業概要	
地域の教育・社会機関として、社会包摂型事業の一環として取り組む。文化や芸術の魅力を身近に感じ、子どもたちの感性や創造性を豊かにするきっかけづくりとして実施する。	
全体の活動回数 11 回（11 回）／ 延べ参加者数 + 観客数 147 人（100 人）（昨年度）	
実績及び成果 ※各事業の詳細は、事業報告書 P 30 ～ P 33 及び P 56 参照	

主な成果及び課題	
(1)鑑賞事業 演劇①②	2 事業ともに特徴ある作品して提供でき、共に良質な舞台となった。一方①については、出演者知名度を生かした広報力が思うように浸透せず、より細やかな営業や広報活動などに課題が残った。②は、仙南圏域の各社会福祉施設やその家族を対象に招待。満足度の高い取り組みとなった。
(1)鑑賞事業 音楽③～⑤	3 事業とも国内トップクラスのアーティストや演奏家のステージであり、アンケートからも高い満足度の評価をいただいた。一方、コロナ禍における座席数の制限もあいまって、観客動員が、計画より低く、ポストコロナに向けては、販売促進と告知面で課題を残した。
(1)鑑賞事業 ワールド・伝統芸能⑥⑦	海外を基礎とするワールドのジャンルは、コロナ禍において、招聘が難しく、世界で評価される和太鼓に焦点をあて開催。目標とする集客にはほぼ到達できたが、ポストコロナにおける集客などの設定変更など、今後、新たな戦略を考える必要がある。
(2)その他 えずこサンタプロジェクト・インターン	サンタプロジェクトは、就学支援制度を受ける児童・生徒を対象とする招待事業。社会機関として、劇場の果たす役割や存在の意義を地域社会の未来を担う子どもたちに伝え、公共劇場が取り組みを可視化し、感性を磨ききっかけづくりとした。対象が 2 市 7 町の広域圏であり、を対象者数の多さと協賛金の獲得のバランスと実行・継続性が課題。

内部評価と観点		評価	総合評価
(1)鑑賞事業 演劇①②	地方ではなかなか観ることができない良質な舞台を提供。加えて、話題性の高い作品の提供ができていることは評価に値する一方、演劇ファンへの告知や販売促進に向けた更なる営業強化に傾けたい。	B	B
(1)鑑賞事業 音楽③～⑤	高品質かつ観客にも満足度の高いステージを提供できた。音楽のジャンルは幅広く、さまざまな表現やアーティストの招聘を引き続きバランスをとりながら実施していきたい。一方、今後のポストコロナに向けた告知やチケットの販促の活動も今後強化を図る必要がある。	B	
(1)鑑賞事業 ワールド・伝統芸能⑥⑦	ワールドのジャンルは県内でも開催事業も少ないことから、圏域を問わず非常に貴重な機会を作っているが、国内でもこうした事業の招聘そのものが減少傾向にあり、開催に向けての選択範囲が狭くなりつつある。一方、寄席についてはブランディング化に成功し、集客やアーティスト、作品についてもバランスの取れた内容で提供できている。	A	
(2)その他 えずこサンタプロジェクト・インターン	えずこサンタプロジェクトは、大河原・柴田・村田の 3 町から 2 市 7 町の広域圏に広げた事業展開をスタートさせた。協賛金の獲得と事業告知のバランスを取りつつ、継続を目指す。また、インターンでは、受入れの生徒数も増加傾向にあり、劇場の役割や魅力について、受講した生徒たちからは、高い満足度と期待の声を多くもらった。	A	

※ A・・・ 目標を上回って達成した B・・・ 目標をほぼ達成した C・・・ 目標をやや下回った D・・・ 目標を下回った

外部評価員による評価
<p>終演後のオールスタンディングのオペーションなどを見ると、観客が育っていると感じる。サンタプロジェクトのように可視化された取り組みは重要で更なる広がり期待したい。一方、不登校などにより切実な問題を抱える子どもたちに対する取り組みなども今後検討して欲しい。</p> <p>産業、観光、教育、福祉など横断的な事業の取り組みが示される文化芸術基本法などを上位概念として意識し、地域の文化政策が、国の文化政策に反映されていくことを踏まえて、オープンな取り組みを行って欲しい。</p>